

平成23年度 事業報告書

自 平成23年 1 月 1 日

至 平成23年12月31日

財団法人 河北文化事業団

1. 事業の報告

(1) 主催事業

(イ) 第60回（平成22年度）河北文化賞の贈呈

東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各分野で顕著な業績を上げた個人、団体に贈る第60回河北文化賞は、東北6県から推挙を受けた計33件の中から6件の授賞を決定した。贈呈式は平成23年1月17日、仙台市の仙台国際ホテル「平成の間」で、東北各県各界の代表約350人の列席を得て行った。

受賞者と業績は次の通り。

「資源の安定確保へ 秋田大学の挑戦」

秋田大学学長 吉村 昇

「多年にわたり陶芸界の発展と芸術文化の向上に寄与」

陶芸家 針生 乾馬

「バンクーバー冬季五輪 スピードスケート男子500メートル銅メダル」

日本電産サンキョー 加藤 条治

「光エレクトロニクス半導体材料・素子・プロセスに関する研究」

東北大学学際科学国際高等研究センター客員教授 八百 隆文

「将棋を通して伝統文化の普及と向上に寄与するとともに社会貢献に尽力」

ナカト代表取締役 中戸 俊洋

「誰もが参加でき、気軽に楽しめる無料の市民音楽祭の定着を通じた地域活性化」

定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会

贈呈式では、一力雅彦理事長が受賞者の業績を紹介し、「今後も東北の文化向上、発展のために努力され、河北文化賞の意義をより深いものにしていただきたい」とあいさつ。金成有造常務理事が審査経過を報告し、一力理事長から受賞者に本賞（賞牌）と副賞100万円ずつが贈られた。この後、東北大学加齢医学研究所教授川島隆太氏が「脳を鍛える」と題して記念講演を行った。引き続き茶話会に移り、各推挙者から受賞者それぞれの人柄や業績の紹介があり、盛会のうちに幕を閉じた。

(ロ) 第75回河北美術展は東日本大震災により中止

河北新報社との共催で4月23日から5月4日まで、仙台市の藤崎本館7階催事場と8階グリーンルームで予定していた「第75回河北美術展」は、3月11日に発生した東日本大震災の影響により、中止を余儀なくされた。

既に作品募集を行っていたことから、当初、開催の方向で準備を進めたが、審査会場となる仙台市青葉体育館と展覧会会場の藤崎の被害が予想以上に大きく、復旧も会期に間に合わないと判断されたため、やむなく中止とした。戦後初の休展。

(イ) 若鷲旗争奪第40回東北中学校野球大会兼第33回全国中学校軟式野球大会東北予選会の開催

東北中学校体育連盟、東北軟式野球連盟、山形県教育委員会、米沢市教育委員会、南陽市教育委員会、山形・高畠町教育委員会との共催で、第40回東北中学校野球大会を第33回全国中学校軟式野球大会の東北予選会を兼ねて8月8日から10日までの3日間、米沢市営野球場（米沢市）と高畠町野球場（高畠町）を会場に開催した。

東北各県から平賀東、鶴田（青森）、大船渡一、雫石（岩手）、秀光中教校、加茂（宮城）、羽城、稲川（秋田）、酒田四、余目（山形）、西郷二、郡山三（福島）の計12チームが出場、熱戦を繰り広げた。

決勝は羽城と平賀東の対戦となり、羽城が7－0で4年ぶり2回目の優勝を飾り、若鷲旗を手にした。両チームと第3代表決定戦に勝利した秀光中教校が東北代表として和歌山市などで開かれた全国大会に出場したが、3校とも初戦で敗退した。

(ニ) 第58回河北書道展の開催

東北書道界の最高峰を誇る第58回河北書道展を河北新報社との共催で、8月5日から10日までの6日間、藤崎本館7階催事場で開催した。

今回は東北各県から会友、一般合わせて871点（前回1,027点）の応募があった。部門別の応募状況は、第1部（漢字）174点、第2部（かな）

78点、第3部（墨象）117点、第4部（近代詩文）192点、第5部（少字）73点、第6部（篆刻・刻字）94点、第7部（漢字一行書）143点。

今回は、震災で書作活動が制限される中での応募となり、今回限りの特例として出品された全作品を展示することとした。また、審査も特例として特別顧問、顧問、参与、審査会員の全員が参加して行った。菊田翠谷審査委員長以下68人の審査員の厳正かつ慎重な審査により、入賞16点、特選77点、準特選46点が決まった。

河北賞は、第1部＝阿部香華（仙台市）、第2部＝岩澤芳華（仙台市）、第3部＝後藤歩（栗原市）、第4部＝鈴木千恵子（塩釜市）、第5部＝二野瓶雅人（山形市）、第6部＝田中清翠（多賀城市）、第7部＝菊田杏仙（気仙沼市）の各氏が受賞した。

展覧会には、入賞、入選作品と顧問、参与、審査員、招待、委嘱作家の作品を合わせた1,044点を展示、訪れる書道ファンの目を楽しませた。本展終了後、大崎市で巡回展を開催し、好評を得た。

(※) 第55回全東北ピアノコンクールの開催

東北放送、東北放送文化事業団との共催による第55回全東北ピアノコンクールの本選会を7月10日、仙台市の常盤木学園高等学校シュトラウスホールで開催した。

今回は東北6県にゆかりのある54人が参加し、うち予選を通過した5人が本選に出場。審査の結果、山形大学大学院1年小平圭亮さん（宮城県出身）が第1位に輝き、文部科学大臣賞を受賞した。

このコンクールは、東北の音楽文化の振興をはかるとともに、若手演奏家を育てようと昭和32年にスタート。以来、55回を数え、この間、多くの優れたピアニストを中央楽壇に送り出すなど、大きな成果を上げている。

(へ) 第20回河北工芸展の開催

河北新報社、宮城県文化振興財団との共催で、第20回河北工芸展を10月21日から26日までの6日間、仙台市のせんだいメディアテーク6階ギャ

ラリー a で開催した。

震災で窯や工房が壊れた工芸家が少なくなかったことから、出品数の激減が予測され、当初は中止も想定されたが、心の復興につなげたいとの思いから実施に踏み切った。その結果、東北地方をはじめ全国各地から285点（前回351点）の応募が寄せられた。

また、審査直前、審査員の酒井田柿右衛門氏が体調不良のため急きょ備前焼の伊勢崎淳氏（日本工芸会）に交代した。伊勢崎氏と春日井路子氏（現代工芸美術家協会）、古見準士氏（日本新工芸家連盟）が審査を行い、入賞15点、入選145点を選考。最高賞の河北賞は陶磁作品を出品した桧垣孝二氏（宮城・蔵王町）が受賞した。

展覧会場には、入賞、入選作に審査員、顧問、招待作家の作品23点を加えた183点が展示され、連日多くの工芸ファンが訪れ、作品に見入った。

同展は東北の工芸美術の振興と発展を目的に、平成4年に創設。今回が節目の20回展となったことから、記念事業として顧問作家による座談会を開催した。陶磁の高倉健、橋本昌彦、七宝の高橋通子、漆の沓澤則雄、染織の渡辺つる子、木竹の渡辺栄の6氏が、これまでの歩みを振り返るとともに、震災後の東北における工芸の役割などについて話し合った。若者の発表の場が失われる中、河北工芸展が最後のとりでになっている一などの意見が出された。

(2) 協力事業

宮城県芸術協会、河北新報社などが主催する第48回宮城県芸術祭に協力し、優秀な成績を収めた12人に奨励賞を交付した。

受賞者は、絵画部＝伊藤宏子、谷本優子、玉川浩嗣、写真部＝昆野三津男、谷内信行、書道部＝岩渕拙廬、横田汀華、末永香雅、板橋翠苑、熊谷宗苑、工芸部＝浅井裕子、文芸部＝仁多見千絵の各氏。

2. 処 務 の 概 要

(1) 役員に関する事項

(平成23年12月31日現在)

役 職	氏 名	手当	現 職	就任年月日
理 事 長	一 力 雅 彦	なし	河北新報社代表取締役社長	平 22 ・ 4 ・ 1
常務理事	金 成 有 造	〃	河北新報社取締役	平 22 ・ 4 ・ 1
理 事	奥 山 恵美子	〃	仙台市長	平 21 ・ 8 ・ 22
〃	一 力 敦 彦	〃	東北放送代表取締役社長	平 23 ・ 7 ・ 1
〃	久 道 茂	〃	東北大学名誉教授	平 16 ・ 4 ・ 1
〃	加 藤 正 人	〃	前宮城県社会福祉協議会会長	平 20 ・ 4 ・ 1
〃	小 山 喜三郎	〃	宮城県芸術協会理事長	平 20 ・ 4 ・ 1
監 事	佐 藤 久 内	〃	仙台銀行相談役	平 11 ・ 12 ・ 14
〃	岡 崎 智 政	〃	前三陸河北新報社代表取締役社長	平 19 ・ 6 ・ 27
評 議 員	村 井 嘉 浩	〃	宮城県知事	平 17 ・ 11 ・ 21
〃	佐 藤 雄 平	〃	福島県知事	平 18 ・ 11 ・ 13
〃	達 増 拓 也	〃	岩手県知事	平 19 ・ 4 ・ 30
〃	三 村 申 吾	〃	青森県知事	平 15 ・ 7 ・ 1
〃	佐 竹 敬 久	〃	秋田県知事	平 21 ・ 4 ・ 20
〃	吉 村 美栄子	〃	山形県知事	平 21 ・ 2 ・ 14
〃	井 上 明 久	〃	東北大学総長	平 18 ・ 11 ・ 6
〃	星 宮 望	〃	東北学院学院長	平 19 ・ 4 ・ 1
〃	幕 田 圭 一	〃	東北経済連合会名誉会長	平 17 ・ 5 ・ 18
〃	小 林 伸 一	〃	宮城県教育委員会教育長	平 20 ・ 4 ・ 1
〃	佐 藤 敏 国	〃	仙台市博物館館長	平 21 ・ 4 ・ 1
〃	渡 辺 雄 彦	〃	宮城県芸術協会顧問	平 10 ・ 5 ・ 21
〃	出 村 和 子	〃	仙台いのちの電話理事長	平 20 ・ 4 ・ 1
〃	火 煙 雅 之	〃	東北放送事業局長	平 21 ・ 4 ・ 1
〃	穴 戸 實	〃	河北新報社専務取締役	平 17 ・ 4 ・ 1
〃	大 島 孝 夫	〃	河北新報社常務取締役	平 20 ・ 4 ・ 1
〃	西 川 善 久	〃	河北新報社常務取締役	平 20 ・ 4 ・ 1
〃	田 中 昭	〃	河北仙販代表取締役社長	平 20 ・ 4 ・ 1
〃	木 村 定	〃	河北折込センター代表取締役社長	平 22 ・ 4 ・ 1

(2) 職員に関する事項

職 務	氏 名	就任年月日	担当	手当	
職 員	三 浦 尚 登	平 20・4・1	総務	なし	河北新報社営業本部事業部副部長
〃	菊 池 かおる	平 16・4・1	〃	〃	河北新報社営業本部事業部主任

※専任の職員は平成24年4月から配属予定

(3) 役員会に関する事項

(イ) 理事会

開催月日	議 事 事 項	会議の結果
2月21日	議題 1. 平成22年度事業報告書案承認の件	原案通り承認可決
	議題 2. 平成22年度収支計算書案承認の件	〃
	議題 3. 公益法人移行手続きの件	〃
12月19日	議題 1. 平成24年度事業計画書案承認の件	原案通り承認可決
	議題 2. 平成24年度収支予算書案承認の件	〃
	議題 3. 第61回(平成23年度)河北文化賞贈呈の件	〃
	議題 4. 公益法人制度改革の件	〃
	議題 5. その他	

(ロ) 評議員会

開催月日	議 事 事 項	会議の結果
2月21日	議題 1. 平成22年度事業報告書案承認の件	原案通り承認可決
	議題 2. 平成22年度収支計算書案承認の件	〃
	議題 3. 公益法人移行手続きの件	〃
6月10日	議題 1. 理事交代の件	原案通り承認可決
12月19日	議題 1. 平成24年度事業計画書案承認の件	原案通り承認可決
	議題 2. 平成24年度収支予算書案承認の件	〃
	議題 3. 第61回(平成23年度)河北文化賞贈呈の件	〃
	議題 4. 公益法人制度改革の件	〃
	議題 5. その他	

- (4) 許可、認可および承認に関する事項 該当なし
- (5) 契約に関する事 該当なし
- (6) 寄附に関する事項
- 寄付者 社団法人東北経済倶楽部
- 目 的 東北経済倶楽部の解散に伴い残余財産を類似の目的を有する
本団に寄付
- 金 額 7,103,283円
- (7) 主務官庁指示に関する事項 該当なし